

## 「授業改善のための学生アンケート」2019年度後期 顕彰授業における工夫

2020年6月4日

白百合女子大学FD推進委員会

2019年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

**【参考】** 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の9項目です。

- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できたと思いますか。
- Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
- Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
- Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
- Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

### 少人数部門

「演習」 森下 みさ子（人間総合学部児童文化学科） 2019 金4後

工夫の前にあるもの

工夫もコツも大事です。けれど、今回の「演習」は、それより前にあるものに、学生によって気づかされたゼミでした。（学生の許可を得てお話ししています）

毎年、演習にしては多めの15人ぐらいいるので、みんなで取り組みたいテーマを決め、それぞれの関心に合わせたアプローチをしてもらい、順次発表をしてもらっています。全体のモチベーションを上げるためにも、最初に当たる人は、みんなをリードしていくような、しっかりしたレジュメ作成や発表ができる人が望ましい・・・例年、そういう人に一番を引き受けてもらうのがコツでもありました。ところが・・・

今回の一番手は、前の年の200人を越える大人数授業では遅刻や欠席が目立って心配していた学生になってしまいました。しかも、演習が始まってまもなく発表の順番を決めるときにも（家の事情で）休んだために、一番手になってしまったのです。うーん、困った、彼女が先頭で大丈夫だろうか・・・と思いました。ただ、発表の前に研究室に相談にきてくれ、何よりも楽しそうに取り組んでいたのも、ちょっと安心しました。

いよいよ発表当日、彼女は（例年の一番手以上に）レジュメも発表も、実に実にみごとにこなしてくれたのです。巧みに画像をとりこんだパワポの使い方やゼミメンバーへの問いかけ等、授業でマネしたいくらいの出来栄でした。メンバーの反応もよくて、リアペには「〇〇さん、見直した！」「いきなりハードル、あげられたー」「こんな発表をしてみたい」等、賞賛の言葉が寄せられました。その中の一枚に、こんなことが書かれていました。「〇〇さんは、ずっと前から

やればできる人だと思っていた。今日、その力が発揮されて、私はとってもうれしい。」・・・瞬間、「こういう先生になりたい」と思いました。わたしがコツを活かせずに「困ったなあ」などと思っているときに、「やればできる」というまなざしで彼女を見守り、彼女の底力が発揮できたことを自分のことのように喜ぶ人がいたのです。

「演習」はじめ少人数の授業の良さはわかっていたつもりでしたが、一番大事なことを見逃がしていたような気がしました。大人数授業では数の中に埋もれてしまう、その人の底力を信じて、引き出す機会を作って、みんなで見つけ合って糧にしていく・・・目的によって方法も工夫やコツも違うかもしれません。が、そういう学生への向き合い方は共通しているような気がします。振り返ってみると、ゼミの学生同士、良いものを引き出し合い、評価し合い、糧にしていたことにも気づかされました。

だから、来年度からは、そういうまなざしで学生ひとりひとりを見ていこう・・・と思った矢先、褒め上手の学生たちによって「少人数授業の高評価」をいただけてしまいました。結局、わたしのいいところも見つけてくれた（のかな？）、ゼミ生たちのまなざしが暖かかったということでしょう。



## 多人数部門

### 「創作文化研究Ⅱ」 やた みほ（人間総合学部児童文化学科）2019 金3後

#### 工夫した点

「創作文化研究Ⅱ」は映像を扱う授業で、ドキュメンタリー、ミュージックビデオなどの制作を行います。昨年度まではPCで編集してもらっていましたが、出力に時間がかかったりデータが消去されてしまったりというトラブルがありました。今年度からiPadをグループで1台ずつ使用できるようになり、撮影・編集がスムーズになったため、データの出力、保存に関するストレスが軽減されたように思います。

この授業の目的でもある「地域との交流活動」として11月末にはせんがわ劇場で「白百合おたのみ劇場」を企画しました。参加者を募ったところ20名近い学生が希望をしてくれ、出演（司会、アテレコ、ナレーション、ダンス）、受付、ワークショップの補助など役割分担が幅広くできました。当日は近所の保育園、幼稚園の子どもたち、ご近所の乳幼児親子など、たくさんの方々が来場。プログラムには、学生が授業で作ったアニメーション、参加型映像、ダンスを取り入れ、子どもたちも一緒になってクイズに答えたり踊ったりしてくれました。

このように、授業での活動、作品がイベントに生かされ、お客さまの反応を直に感じ取れたことが学生たちのやる気、満足度につながったのかと思います。

この授業に際しては多くの方にご協力をいただきました。毎週機材の準備をしてくださった管財課の皆さま、地域連携事業ご担当の社会連携センター、せんがわ劇場、調布市の皆さま、ゲストにいらして下さった役者さんたちのお力なくしては実現できませんでした。「白百合お楽しみ劇場」開催にご理解下さった先生方、助手さん。そして積極的に授業に参加し、楽しい作品を残してくれた履修生たち。皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。

